

日本物理学会 第71回年次大会(2016年)
領域10 誘電体分科インフォーマルミーティング 議事録

日時:2016年3月20日(日)17:30~18:30

場所:東北学院大学泉キャンパス AQ会場

議事など:

1. 【領域10 運営会議(2015/12/4)報告】

・領域10運営会議で話し合われた、「今後のシンポジウム提案」、「概要集」、「領域10連絡員」、「領域10全体へのアナウンス」、「物理学会設立70周年記念行事:領域別「研究ハイライト」候補」について、報告された。

2. 【プログラム編集会議の開催方式について】

・プログラム編集会議の今後の開催方式について議論がなされ、下記の意見が出された。

ー領域10は分科の内容が多岐に渡るため、運営委員が情報交換や今後の活動計画の議論を行う領域10運営会議(プログラム編集会議時に開催)は存続した方がよい。

ープログラム編集会議に運営委員が参集するしないは、領域ごとに決めてもよいのではないか。

3. 【メーリングリストの移行】

・日本物理学会事務局で提供する予定のメーリングリストについて説明がなされ、誘電体分科として希望することが決まった、

4. 【学部学生ポスターセッションについて】

・本年次大会 実験核物理・理論核物理領域にてパイロット事業として開催されている「学部学生ポスターセッション」について、物理学会全体の事業へ拡大について議論され、以下の意見が出された。

ー領域10を含む物性領域では、学部学生の講演は既にポスターセッション等の一般講演に組み込まれている。

ー逆に学部学生に限った枠にすることにより、ポスターセッションに来る研究者の数が減るなどの逆効果も予想されるため、行わない方がよい。

5. 【次次期運営委員について】

・次次期運営委員として、藤井次期運営委員より青柳忍氏(名古屋市立大学)が推薦され、了承された。

6. 【物理学会 2016 年 9 月秋季大会シンポジウムの計画について】

・物理学会 2016 年 9 月秋季大会シンポジウムについて、「不揮発性メモリの物理と最新動向」と題した計画について西松運営委員から説明がなされた。

ー物理学会ならではの基礎的な視点の必要性や、企業の研究者に講演を依頼する際の難しさ、他学会(応用物理学会等)との重複についてコメントが出され、引き続き西松運営委員が検討する旨、決まった。

ーまた、木村宏之教授(東北大多元研)が代表者を務めている豊田理化学研究所 特定課題研究「マルチグローブ融合利用による新奇強誘電体材料の物性解明」において8次元計測をテーマにした研究会が観測されており、関連したシンポジウムを物理学会で開催することを検討していく旨、決まった。

7. 【会議の告知、状況説明】

・The 11th Korea-Japan Conference on Ferroelectrics (KJC-FE11)について黒岩芳弘氏(広島大)から告知があった。

・2016 Joint RCBJSF-IWRF conference について塚田真也氏(島根大)から開催準備状況について説明があった。

進行 領域10誘電体分科 運営委員 松浦直人(総合科学研究機構)

書記 領域10誘電体分科 運営委員 西松毅(東北大金研)